

○評価結果を踏まえた改善方法

令和2年度の改善について～（結果）

～平成30年度版（令和2年6月22日公開）の学校関係者評価委員会

「学校運営」で指摘のあった「校納金の見直し（値上げ）」について、令和元年度授業料等の一部を見直し、値上げの届け出を行い、令和2年度より実施している。

「教育活動～目標設定等」で指摘があった「教職員のレベルアップ」については、社会人経験者や新卒者を含め、教職員の入替及び増員を行い、拡充を図った。

「教育活動～教育方法・評価等」で指摘があった「青島大学への派遣」については、新型コロナウイルスにより中止したため、報告会も実施できない。

「教育活動～資格試験」で指摘があった「eラーニング教材の展開」については、令和元年度より導入した簿記・マナーのeラーニングにて令和2年度より反転授業の更なる研究を行った。

「教育活動～教職員」で指摘があった「研修会での報告書等の回覧」については、令和元年度中の指摘時から教職員へ回覧を行っている。

「学習成果」で指摘のあった「リメディアル教育以外のeラーニング」については、新型コロナウイルス拡大により、遠隔授業も今後あり得る為、令和2年度より英語・数学のeラーニング教材導入と令和3年度以降も専門教材のeラーニングを導入することとした。

「学生支援」で指摘のあった「文部科学省などの研究事業」については、教育的課題が各関係団体から挙げられているので令和3年度以降に文部科学省の研究事業として申請を行うこととする。

「学生の受入れ募集」で指摘のあった「選ばれる学校」については、学生定員の増加により新校舎（第5号館）を竣工し、学習環境の充実を図った。更に、令和2年度中に国際的入学基準を導入し、併せて、国際的入学基準と連動した学生へのポートフォリオ作成ツールを令和3年度より全学生に導入予定である。

「社会貢献・地域貢献」で指摘のあった「公開講座等の更なる減少」については、令和2年度より事業部を設置し、内部教員が行うのではなく、外部の教育資材を活用して講座を実施した。

「国際交流」で指摘のあった「提携校を中国以外にも」については、新型コロナウイルス感染拡大が沈静化し次第、整備を行うこととした。

令和3年度以降の改善について～（予定）

～令和元年度版（令和2年12月18日公開）の学校関係者評価委員会

「教育活動～教育方法・評価等」で指摘があった「外部評価の導入及び組織変更」について、次年度以降進める予定である。

「教育活動～資格試験」で指摘があった「教員の質向上」について、指摘内容でもある「これからの時代に向かう学生の為に何が必要か？」という問題を解消すべく、気付き・思考・判断・表現する力を身につけるための教職員研修を複数回にわたり実施する予定である。教職員が自ら考え行動することで教員の質向上につながることを期待される。

「教育活動～教職員」で指摘があった「社会人としての資質」について、採用方法の見直しのため、採用面接に模擬授業の導入を検討している。実践を想定した選考を行うことで、教員としての資質の有無を測ることができると期待される。また、教員間及び学生と教員の間で起こっている「あだ名」を解消すべく人権研修を行い、学生・教職員間の適切な距離についての認識を統一する予定である。

「学習成果」で指摘があった「入学時のミスマッチを減らす努力」について、オープンキャンパス開催時に参加学生へ希望進路の聞き取りを実施するほか、教職員での認識の統一・情報共有を徹底する。また、個別対応を行った際は、その内容を記録し全教職員が閲覧できる場所に保管することで誤った学校案内を行っていないか等確認が取れるようにする予定である。

「学生支援」で指摘があった「文部科学省などの研究教育事業を進めて他の教育機関へ広める」について、次年度以降積極的に進める予定である。

「学生の受入れ募集」で指摘があった「校納金減免規程の見直し等」について、次年度以降も引き続き高等教育の修学支援新制度等の時代に合った対応を行う予定である。

「学生の受入れ募集」で指摘があった「募集システムの普及活動」について、システムの普及活動の一助となるよう導入事案を本校のホームページやパンフレットに掲載する予定である。

「国際交流」で指摘があった「留学生の受入れ」について、留学生の入学希望者の減少が見込まれる次年度以降も一定数の学生確保ができるよう広報活動を行う予定である。